

じゅうたく

住宅

けんない まんとつ いじょう
県内1万棟以上の
じゅうたく ぜんはんかい
住宅が全半壊

じしん ゆ
地震の揺れ、液状化、
つなみ えきじょうか
津波などで、県内の住宅
ぜんはんかい あ
は全半壊合わせて1万棟
いじょう ゆかうえ ゆかしたしんすい
以上、床上、床下浸水、
かさい あ
火災なども合わせると5
まん どう ひがい
万8,440棟が被害を
う おお ひと す
受け、多くの人が住むと
ころをうしな
ころを失い、しばらくの
あいだ がっこう こうみんかん
間、学校や公民館などで
ふべん ひなんせいかつ おく
不便な避難生活を送るこ
とになりました。

ひと はや
そのような人たちが早
お せいかつ と
く落ち着いた生活を取り
もど さいがいきょう
戻せるようにと、災害協
てい もと けんせつ きぎょう
定に基づき、建設企業の
きょうりょく
協力で3月30日から、
こうえんとう ち りょう
公園等の空き地を利用し
かせつじゅうたく
て仮設住宅をつくる工事
はじ
が始まりました。

けんせつ きぎょう どうりょく
建設企業の努力により、
しんさい やく げつこ
震災から約2か月後には
にゅうきょ ひがい
入居がはじまり、被害が
おお あさひし かとりし
大きかった旭市と香取市
では、合わせて507人
にゅうきょ
が入居しました。
へいせい ねん ねんまつ だん
平成24年の年末の段
かい
階でも、400人以上が、
じたく もど
自宅に戻れずにいます。



仮設住宅を建設するようす（香取市提供）